

保護者・理解者・相談者・協力者

児童（小学生）・生徒（中学・高校生）・学生（短大・大学生、高等専門学校生）と子ども達が学ぶ場所によって呼び名が変わります。ちなみに、幼稚園や保育所に通う子ども達は「園児」と呼ぶそうです。

以前、父から親の心得として「児童の時は**保護者**でいいが、中学時代は心の**理解者**、高校時代は将来のことを話し合える良き**相談者**、学生では大人同士としての良き**協力者**であることが大切」と聞いた事があります。なるほど、親は子どもの保護者であることをベースに、成長過程において理解者、相談者や協力者でもあって欲しいとの願いからの言葉だと思えます。私自身、両親や祖母から保護者としての生活すべてに恩を受け、中・高校時代は揺れ動く青春期の伴走者として支えてもらい、大学時代は度重なる無理なお願いにも快く物心両面で援助してもらいました。

さて、私は我が子に対して、良き保護者・理解者・相談者・協力者であっただろうかと自問自答する日々。手を放しても目を離さなかった保護者時代、親のうしろ姿を見せ続けた理解者・相談者時代、騙されながら(?)も支援を続けた協力者時代。それなりにやったつもりではありますが、子どもにはどう映っているかは分かりません。

何年か前の10月4日に息子から「誕生日おめでとう！」のメールがあり、「誕生日じゃないから！」と返信。「あれ、トシヒコだから10(ト)4(シ)で10月4日でなかった？」とのこと。数字の語呂合わせと誕生日を勘違いしている……。その日から私の誕生日は10月4日でもいいことにしました。追記:今年には本当の誕生日にメールが届きました(笑)

(10月4日 更新)